

番号	氏名	抱負
121	指江 浩之	
122	佐藤 公悦	私はトーレック株式会社に勤務する企業人です。会社では画像診断機器品質管理用計測器を製造し医療施設様へ製品をご提供する立場ですが、技術の発展とより複雑な社会となりつつある現在、学会と企業とを繋ぐことが互いに重要な事柄となってまいりました。微力ではありますが学会と企業の橋渡し役としてお役に立てればと考えております。
123	佐藤 智春	
124	佐藤 晴美	診療放射線技師になり、約30年になります。地方からの声や、女性の診療放射線技師たちの声を中央に届けたいと考えております。地方の医療の現状はまだまだ、整っているとは言えません。しかし、技術だけでなく、まずは、人間性豊かな、医療人を増やして行きたいと、考えています。よろしく願いいたします。
125	澤田 通文	
126	志田 晃一	私が代議員に当選するした暁には、子育てをしているしていないに関係なく、皆さんが同じ条件で放射線技術を学び、仕事をしていける環境を整えていきたいと考えています。そのためにはまず、上層部がそのような理解のもと、育児休暇から戻った女性技師がスムーズに職場に戻れるよう、e-leaningなどをもっと周知・普及させる必要があると考えています。そのような活動に私は全力で尽力する所存です。
127	霜村 康平	日本放射線技術学会における学術的、教育的な活動について、これまでの経験を少しでも役立て、患者への利益に繋げたく、代議員に立候補いたしました。皆様のご支援を承りたくよろしくお願い致します。
128	白石 順二	今、学会は大きな変革期を迎えており、国際化や放射線技術科学の発展に向けて、組織の再編成や学会事業の見直しが進んで進んでいます。これらはすべて、先人の先生方がここまで築き上げてくれた学会を、次の世代に、さらにレベルアップして引き継ぐために必要なことだと考えています。この大きな仕事に引き続き関係し、協力していくためにも、代議員として頑張らせていただきたいと思います。
129	杉本 勝也	平成23年度より核医学分科会委員の任をいただき、平成25年度からは代議員の任もいただいております。近年の核医学複合装置の技術進歩には目を見張るものがありますが、一方では、適切なCT撮影線量の管理と小児核医学検査の最適な投与量の検討が必要となっております。今後とも会員の皆様の役に立つ委員として努めてまいりますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します
130	須崎 勝正	大学に勤務しているものとして、診療・研究・教育が必要である。これを進めるには技術学会は必須である。技術学会の代議員になることにより青森県の意見をまとめ、技術学会の発展に寄与したい。